

# 地域の教育力を高める実践研究

## 一校区体育協会との連携を通して一

桜井市立桜井南小学校 教諭 森 澤 太 一  
Morizawa Taichi

### 要 旨

本校における校区体育協会との連携による、世代を超えたスポーツ活動を通しての児童と地域の方々とのふれあいが、児童の社会性の育成などにどのような影響を与えるかについて、児童のあいさつに関する意識調査を実施し、その効果を検証した。

その結果、校区体育協会から派遣された指導者とふれあう中で、児童自身が学校内外での日常生活において、あいさつをすることの意義や重要性を認識し、わずかながら実行するようになった。

キーワード： ふれあい、あいさつ、地域で育てる

### 1 はじめに

全国学力・学習状況調査などの結果から、奈良県の子どもたちの規範意識や社会性が全国平均より低いことが問題になっている。子どもたちに、あいさつなどの礼儀作法が当たり前のようにできる社会性を身に付けさせるためには、学校の教育活動だけでは不十分で、地域社会で様々な人々と出会う機会を設けることが有効であると考えられる。

今年度は校区体育協会と連携を図り、より多くの本校児童が世代を超えたスポーツ活動で地域の方々とのふれあいを体験できるようにした。このことが児童の社会性の育成に与える影響を検証したい。

### 2 研究目的

校区体育協会と連携した活動が児童や地域の人々へもたらす教育的効果について考察する。

### 3 研究方法

本校では、今年度から、従来の施設開放では貸出しをしていない放課後の時間帯に学校の運動場を開放し、校区体育協会と連携してスポーツ活動を行うことにした。この活動への参加前後で児童にアンケート調査を行い、意識の変容を検証する。なお、本研究においては、児童の地域の人々へのあいさつの重要性に対する意識に焦点をあて、その変容をみることにする。

### 4 研究内容

## (1) 本校区における学校と地域との関係について

本校区では、校区体育協会の活動が盛んで、平日（夜間）も学校の体育館を開放しており、バレーボールやソフトテニス、フットサル、野球など子どもから大人までたくさんの人が活動をしている。また、登下校の見守りボランティアとして、地域の方々に児童の安全確保のために協力をしていただいている。さらに、ゲストティーチャーとして来校し、学習の効果を上げてくださっている。ふだんから、学校と地域は児童の健全な育成の推進のために、協力しながら活動している。

しかし、見守り活動の方から、「あいさつしても返事がない。」などの意見があった。学校としても以前から、規範意識を育む第一歩として、児童があいさつしないことやあいさつの声が小さいことを問題にしており、昨年度より、全校であいさつ啓発の標語を作ったり、委員会活動（なかま委員会）の一環として朝のあいさつ運動に取り組んだりしてきた。この活動は、今年度も継続し、その成果として、朝、大きな声で元気よくあいさつをして登校する児童が増えてきた。しかし、まだまだ、地域の方々に、進んであいさつをする児童は少ないようである。

## (2) 校区体育協会との連携

昨年までは、幾つかの市体育協会主催の大会に出場するために、教員のみで活動を指導してきたが、あいさつなどの礼儀作法が当たり前のようにできる社会性を身に付けさせるため、今年は校区体育協会に支援を求め、指導者の派遣を依頼した。また、身近なスポーツで児童が地域の人々と楽しめるものがあれば紹介してほしいと依頼した。以前より校区においてソフトボールの対抗試合が行われていたので、対抗試合に参加するため、引き続きソフトボールをスポーツ活動の種目として取り上げることにしたが、運動があまり得意でない児童も積極的に参加できるようにと、グラウンドゴルフも導入した。日時などの調整が難しかったが、ソフトボールとグラウンドゴルフの指導者が見つかり活動することができた。

ソフトボールについては、シニアソフトボールチームの指導もされている専門の方が3名、グラウンドゴルフについては、校区体育協会グラウンドゴルフ部所属60数名から5名を派遣していただいた。8名の指導者の中には自身の子どもや孫が活動に参加している方もおられ、児童にスポーツの技術を身に付けさせるだけでなく、社会性を身に付けさせるという意味においても、熱心に御指導いただけた。



図1 ソフトボールの活動の様子



図2 グラウンドゴルフの活動の様子

表1 ソフトボールの練習日程

練習日	練習時間
6月9日(木)	16:00~17:00
6月16日(木)	16:00~17:00
6月23日(木)	16:00~17:00
6月30日(木)	16:00~17:00
7月7日(木)	16:00~17:00
7月14日(木)	16:00~17:00
7月15日(金)	16:00~17:00
7月17・18日	大会当日

表2 グラウンドゴルフの練習日程

練習日	練習時間
10月13日(木)	16:00~17:00
10月20日(木)	16:00~17:00
10月27日(木)	16:00~17:00
11月10日(木)	16:00~17:00
11月17日(木)	16:00~17:00
12月1日(木)	16:00~17:00
1月19日(木)	16:00~16:30
1月26日(木)	16:00~16:30
2月2日(木)	16:00~16:30
2月9日(木)	16:00~16:30
2月23日(木)	16:00~16:30
3月1日(木)	16:00~16:30

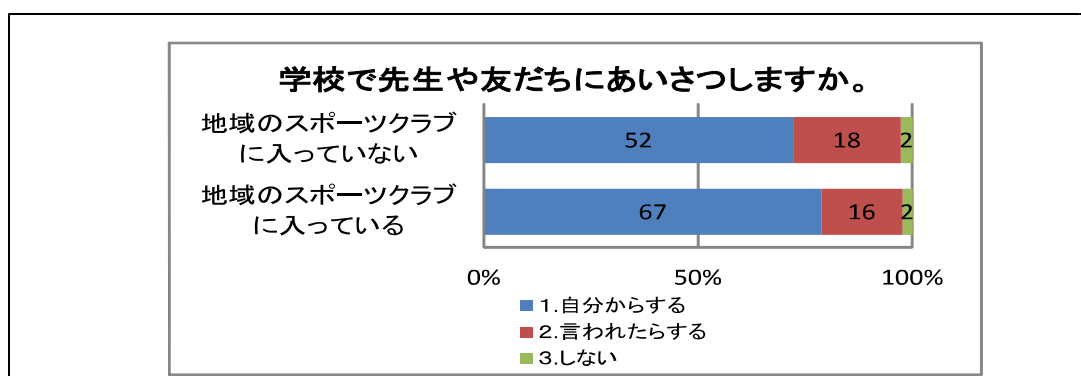
上記の日程でそれぞれ練習を行い、ソフトボールの参加者は39名、グラウンドゴルフの参加者は最初5名であったが日を追うごとに増え22名になった。なお、ソフトボールの練習については、9月以降は土曜日及び日曜日で実施した。

(3) アンケート調査

地域との関わりやあいさつについての児童の様子が、スポーツ活動に参加することによってどのように変容したかを探るために、6月と12月に2回アンケート調査を実施した。アンケートは、第4学年から第6学年までの全ての児童を対象に行った(第4学年72名・第5学年60名・第6学年56名・合計188名)。また、指導者に対しても、感想・意見を求めた。その結果をもとに、児童の実態を見つめ、地域の方々とのふれあいにより、児童のあいさつに対する意識がどのように変容するかを検証する。

ア 児童の実態 (6月のアンケート結果より)

児童のあいさつに対する意識を探るために、6月に三つの項目についてアンケートを実施した。図3は、そのアンケート結果を「地域のスポーツクラブに入っていない児童」と「地域のスポーツクラブに入っている児童」に分けてその違いを比較したグラフである。



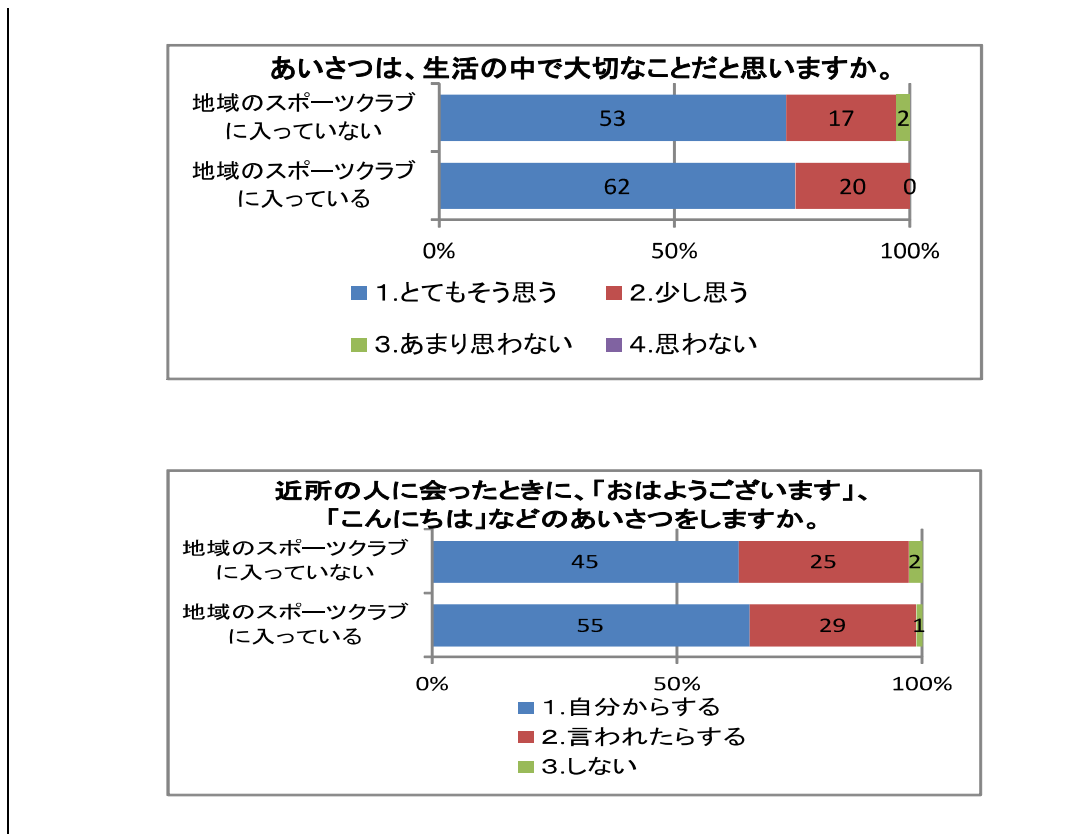


図3 6月のアンケート結果

アンケート結果をみてみると、校区体育協会の活動に日頃から参加している児童は、参加していない児童と比べてあいさつが生活の中で大切なことであると思っている児童が多く、先生や友達にだけでなく、比較的進んで見守り活動の方にもあいさつをすることができているようである。このことから、校区体育協会の活動に参加していない児童は、参加している児童より、あいさつに対する意識が少し低いことが分かる。

イ 児童のあいさつに対する意識の変容

図4から図7は、児童のあいさつに対する意識の変容を見ようとして、校区体育協会と連携したスポーツ活動に参加する前の6月と参加した後の12月に実施したアンケート調査の結果を比較したグラフである。

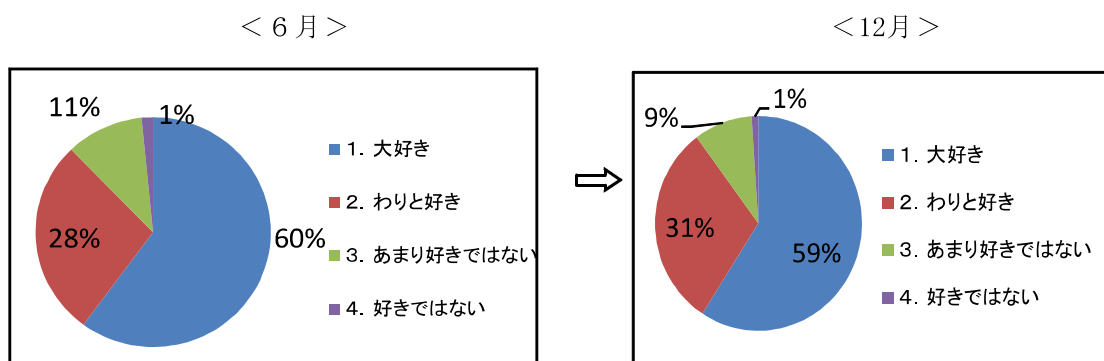


図4 「運動やスポーツをすることは好きですか。」に対する回答の変化

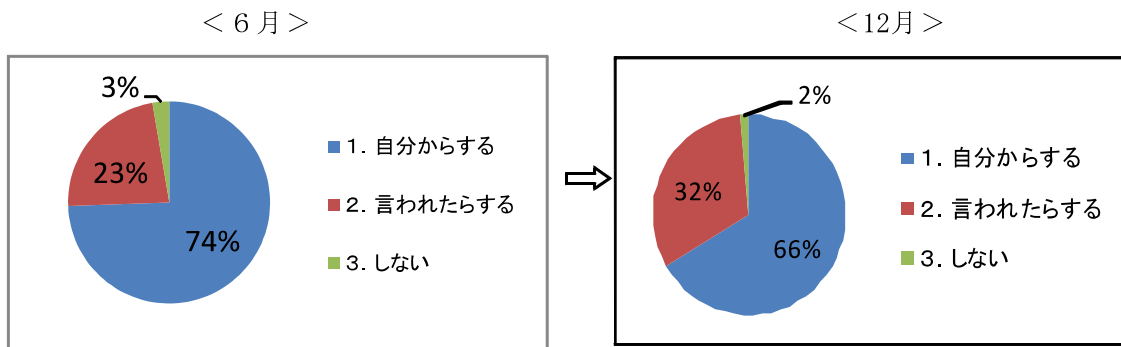


図5 「学校で先生や友だちにあいさつしますか。」に対する回答の変化

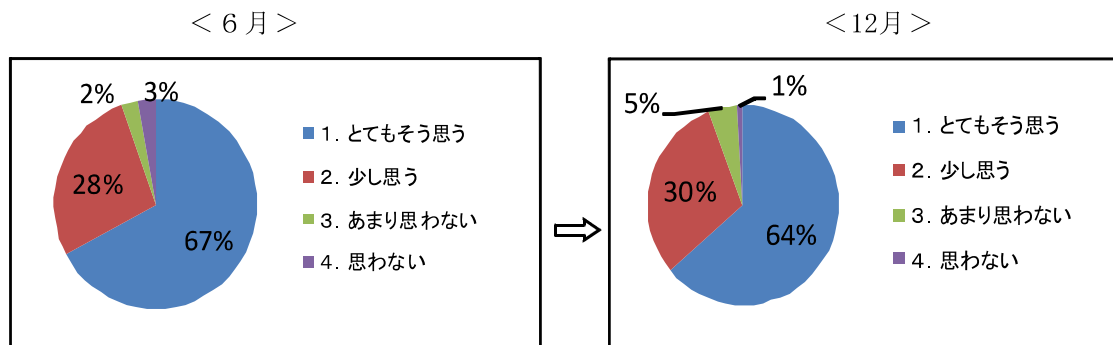


図6 「あいさつは、生活の中で大切なことだと思いますか。」に対する回答の変化

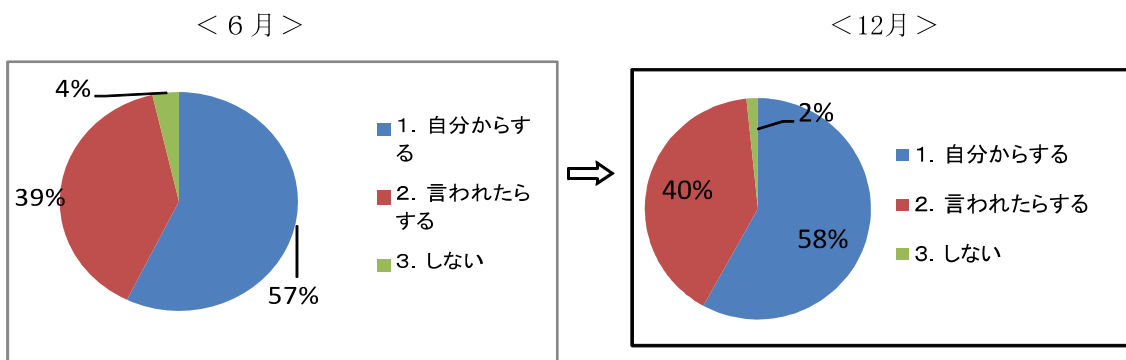


図7 「近所の人に出会ったときに、「おはようございます」、「こんにちは」などのあいさつをしますか。」に対する回答の変化

上記のように、アンケート調査の結果を比較しても、さほど大きな変容は見られない。むしろ下がっている項目もある。これは、ソフトボールとグラウンドゴルフに参加した児童のみではなく、第4学年から第6学年までの全ての児童を対象にアンケートを実施したため、スポーツ活動参加児童のあいさつに対する意識の変容について、正確に測ることができなかったことによるものと考えられる。さらに、ソフトボール参加者の中には、地域のスポーツクラブに参加し、あいさつをする習慣が身に付いている児童が多かったため、大きな変容がみられなかったことも原因であると考えられる。

## ウ 指導者の感想・意見

(ア) 「子どもたちとふれあってみた感想をお書きください。」

- ・言った事に対し、素直に聞いてくれた。
- ・いきいきとした小学生とふれあい、私たち高齢者も楽しい一時を過ごすことができた。
- ・子どもたちは礼儀正しくゲームができ、後始末も率先してやっていた。

(イ) 「ふれあいを通して、子どもたちはどんな風になりましたか」

- ・はじめはクラブを振り回していたが、だんだん集中してゲームができるようになった。
- ・はじめは、緊張していたようだが、慣れてきて私たちになついてきてプレーするようになった。
- ・学校外で会ってもあいさつをしてくれるので気持ちよかった。 など

児童のあいさつに対する意識アンケートでは十分な結果は得られなかったものの、上記のように、指導者から、子どもたちとスポーツ活動を通してふれあえたことで元気をもらえたという感想や、子どもたちの態度についても肯定的な評価をいただいている。また、回数を重ねるごとに集中してプレーができるようになってきたことや、スポーツ活動を通して子どもたちとのつながりができたことで、学校外で出会っても気軽にあいさつをしてくれるようになったなどの感想を得た。このように、子どもたちはだんだんと、指導してくださる地域の方々にあいさつができるように変化していることがうかがえる。

## 5 研究結果と考察

### (1) スポーツ活動への参加児童の増加

ふだんから、校区体育協会の活動などに参加している児童については、市の大会が開催されると聞くと、得意なスポーツであれば進んで参加する姿が見られた。だが、運動が苦手だったり不得意なスポーツになると自信のない児童は、どうしても進んで参加できなかった。

しかし、グラウンドゴルフでは、運動の得意、不得意に関係なく児童が参加するようになり、最初は5名という少人数から始まったが、その後どんどん人数が増えていった。毎週1回しかない日を心待ちにしているという声も聞こえてきた。また、校区体育協会側が、校区グラウンドゴルフ大会の中に小学生の部を今年度新たに設け、開催してくださった。そのような配慮のおかげで15名の児童が進んで参加し、大会を盛り上げていた。

### (2) 校区体育協会と連携した活動がもたらす効果

本校では、なかま委員会を中心に朝のあいさつ運動を行っている。アンケート調査の結果からも分かるように、ほとんどの児童があいさつは大切だと感じているが、半分近くの児童が、自分から進んであいさつができなかった。しかし、校区体育協会の指導者の「学校外で会ってもあいさつをしてくれるので気持ちよかった。」と感想にあったように、ふれあいがつながりになり、学校外でもあいさつができるようになった。このことから、地域の方々とはふれあう機会が増えれば、それが児童と地域の方々とのつながりを生み、学校外で出会った時にも進んであいさつするようになるのではないかと考える。また、礼儀作法についてもあいさつと同様に学校で習得することも大切だが、地域の方々から直接指導していただくことも大いに意義があると考えられる。

### (3) 地域の方々の意識の変化

ソフトボールでは、校区体育協会に市体育協会主催の大会（少年少女ソフトボール大会）

への参加のために指導者の派遣を依頼し、活動に携わってもらったことで、指導者側から大会が終わった後も、もっと児童に力を付けてあげたいので指導をしたいという声上がり、活動を継続することになった。

グラウンドゴルフでは、世代を超えたふれあいを通して指導者も楽しまれているとのことだった。そして、児童のために日頃の練習成果を発揮する場が必要だと考えてくださり、子どもたちを含めた大会が開催されることにつながった。

さらに、校区体育協会が新たに少年ソフトボールクラブと少年少女グラウンドゴルフクラブを設立し、活動に必要な道具も買いそろえてくださった。

上記のように、学校から校区体育協会に様々な活動を依頼し、実際に進めていく中で、地域の方々が児童のためにいろいろなアイデアを出して下さるようになり、活動も増えていった。地域の方々が、依頼されたから活動をするというのではなく、児童のためにできることはないかと考えて下さるようになり、地域で子どもたちを育てたいという思いが強くなったのではないと思う。



図14 グラウンドゴルフの大会の様子

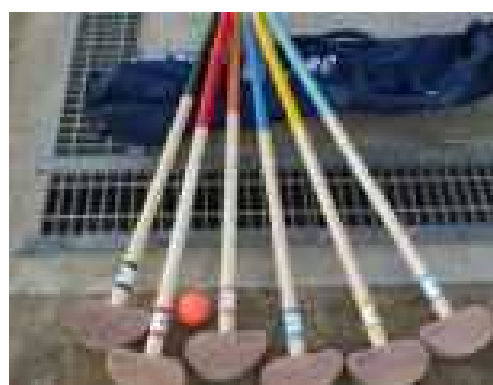


図15 購入した道具

## 6 おわりに

子どもたちに社会性や礼儀作法を身に付けさせるためには、たくさんの人と出会う機会を設けることや、その中でのつながりを大事にさせることが大切だと研究を通して感じた。例えば、児童がグラウンドゴルフに参加したことで、地域の方々とのつながりができ、学校外でもあいさつを進んでできるようになった。指導者からも、自分たちとふれあう中で礼儀正しさを学んでもらえればよいという声が届いた。ただ、今回の研究の中で実施したアンケート調査については、その対象、方法、時期等、更に検討しなければならない。

現在、地域の方を学校行事に招待したり、教科のゲストティーチャーとして学校へ来ていただいたりなどしているが、それだけにとどまらず、今後、学校という教育活動の場をもっと地域と子どもをつなげる場にして、地域の教育力を高めていかなければならないと強く感じた。